

中部日本ニュース

シネスコ版

道新のハハ 大漢つづく国境のサケ漢 程程標舞、ノハハ (本編トツア道地)
 中口新のハハ ほどわの菊人形-石島-ノハハ (本編トツア道地)
 高知新の240 本編同い
 新愛媛の68

No. 405 36.10.20

一、熊野路の秋

—三重

熊野灘の白波がうちよせる七里御浜にようやく秋の気配が深まり、浜辺で名物「御浜小石」を拾う漁師のおかみさんたちの姿がみられます。

この御浜小石は、山合いの神川を原産地とする那智黒石とともに観光熊野の名産。アクセサリーから葺石や硯に加工され、輸出品として貿易に一役買っています。

熊野灘に切りたつ断崖には、獅子岩や鬼ヶ城など、自然の造形の妙をみせる奇観が多く遠来の観光客で賑わっています。

一、追いつめられた石炭鉱業

石炭合理化の風にゆらぐ炭労は北は北海道、南は九州から東京めざして全国をおおう大行進を繰りひらげました。炭労行進団と前後して中小企業の経営者たちも上京、各大臣に個別陳情をはじめました。

こうした事態について佐藤通産大臣は「エネルギー革命だから……」というのですが、石炭の斜陽は没落を意味するのでしょうか。

組合側は池田首相を訪れて石炭産業を国が保護しているイギリスや西ドイツの例をあげて国内産業の保護を訴えました。

また経営者も永い間独占価格を維持し、安い労働力を大量に使って莫大な利益を得てきました。しかしその結果が生産の近代化をおこたることとなり今日のような危機を招いたものといわれています。

しかし合理化はすすめられ、中小鉱山は次々と廃山。大半は大規模な人員整理を行っています。三井三池では、生産量も増えましたが事故件数が倍増。生き残った中小はこれ以上合理化はできませんと動きのとれない模様です。

この三年間に約七万の失業者がでしたがその就職もほとんどきまらず筑豊は職をもとめる人であふれています。

部落全員、生活保護をうける所もあらわれるなど、その状況も深刻です。合理化計画も私的企業ではどうにもできないところまで来たようです。

678円

102円

176円